

知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」

（知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」改訂版）

国立特別支援教育総合研究所（2010）

		小学部（小学校）	中学部（中学校）	高等部		
キャリア発達の段階		職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期		
キャリア発達段階の解説と発達課題		未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まりの時期である。キャリア発達の視点からは、学校及び生活に関連する諸活動のすべてにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、扱われる素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達をとげる時期であり、働くことに対する夢や意欲を育てる。	小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場（働くこと）や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期である。キャリア発達の視点からは、職業生活に必要な自己及び他者理解（自らのよさや仲間のよさ）を深め、実際の職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ること学ぶ。自己の判断による進路選択を経験する時期である。	中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期である。キャリア発達の視点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期である。		
職業的（進路）発達にかかわる諸能力		小学部段階において育てたい力		高等部段階において育てたい力		
能力領域		小学部段階において育てたい力		高等部段階において育てたい力		
人間関係形成能力 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	具体的な活動を通して、自分や他者のよい点を知り、学校教育における諸活動をより良く展開していくために必要な人とのかかわりを形成するとともに、協力・共同して集団活動における役割を果たすための能力の育成に関する領域である。 また、社会生活を送る上で必要となる適切な意思表示の力を高め、社会生活における様々な活動に参加するために、場や状況に応じて適切に行動するための能力の育成に関する領域である。	人とのかかわり		自己理解・他者理解		
		●自分の良さへの気づき ●友達の良い気づき	●達成感に基づく肯定的な自己理解、相手の気持ちや考え、立場の理解	●職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重		
		集団参加		協力・共同		
		●大人や友達とのやりとりと集団活動への参加	●集団における役割の理解と協力	●集団（チーム）の一員としての役割遂行		
		意思表示				
		●日常生活に必要な意思の表現	●社会生活に必要な意思の表現	●必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力		
		挨拶・清潔・身だしなみ		場に応じた言動		
		●挨拶、身だしなみの習慣化	●状況に応じた言葉遣いや振る舞い	●TPOに応じた言動		
		情報活用能力 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	それぞれの職業が人々の生活にとって欠かせないものであることを実際の活動を通して理解するとともに、自らにとって興味のある活動や職業等に関して様々な情報を収集し活用するための能力の育成に関する領域である。 また、労働の対価としての報酬の価値に気づき、社会生活を営む上で必要なルールの理解とそれに沿って行動することや社会の様々な制度の理解とそれらを活用するために必要な能力の育成に関する領域である。	様々な情報への関心		情報収集と活用
				●仕事、働く人など身の回りの様々な環境への関心	●進路をはじめ様々な情報の収集と活用	●職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用
社会資源の活用とマナー				法や制度の活用		
●地域社会資源の活用と身近なきまり	●社会の仕組み、ルールの理解			●社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用		
金銭の扱い				金銭の使い方と管理		
●体験を通じた金銭の大切さの理解	●消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費			●労働と報酬の関係の理解と計画的な消費		
はたらくよろこび				役割の理解と働くことの意義		
●自分が果たす役割の理解と実行	●様々な職業があることや働くことに関する体験的理解 ●学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行			●職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行		
将来設計能力 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	職業に対する憧れをもち、様々な活動において達成感や充実感をもつ経験を積み重ねることを通して、新しい生活や働くことに期待をもつ。 また、職業や社会の中で自立した生活を送るための必要な役割遂行の能力、及び職業生活に必要な習慣形成のための能力の育成に関する領域である。			習慣形成		
				●家庭、学校生活に必要な習慣づくり	●職業生活に必要な習慣形成	●職業生活に必要な習慣形成
		夢や希望				
		●職業的な役割モデルへの関心	●将来の夢や職業への憧れ	●働く生活を中心とした新しい生活への期待		
		やりがい		生きがい・やりがい		
		●意欲的な活動への取組	●様々な学習活動への自発的な取組	●職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用		
		進路計画				
		●目標を実現するための主体的な進路計画		●将来設計に結びつく進路計画		
		意思決定能力 自らの意志と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	選択肢の意味を理解して選択・決定することとともに、選択に伴って実行することを通して責任を果たすことの意味を理解する。 また、課題解決する力を育てるために、自らの判断で目標を決めること、及び結果に対して自ら評価するための能力や、葛藤場面に対して様々な選択肢があることを理解し、より良い選択を目指す態度の育成に関する領域である。	目標設定		
				●目標への意識、意欲	●目標の設定と達成への取組	●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組
自己選択				自己選択（決定・責任）		
●遊び、活動の選択	●自己の個性や興味・関心に基づいたよりよい選択 ●進路先に関する主体的な選択			●産業現場等における実習などの経験に基づく進路選択		
振り返り				肯定的な自己評価		
●活動の振り返り	●活動場面での振り返りとそれを次に生かそうとする努力			●産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価		
自己調整						
●課題解決のための選択肢の活用		●課題解決のための選択肢の活用				
知的障害の各教科の段階との関連	教師の援助を受けながら体験し、基本的な行動を一つ一つ身に付けていく段階（小学部1・2段階）	主体的に、社会生活につながる行動を身に付けていく段階（小学部3段階）	生活経験の積み重ねを考慮して、社会生活や将来の職業生活の基礎的な内容を学ぶ段階（中学部1段階）	卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活などを考慮した基礎的な内容から発展的な内容を学ぶ段階（高等部1・2段階）		

※本試案における「能力」とは、competencyのことを指す